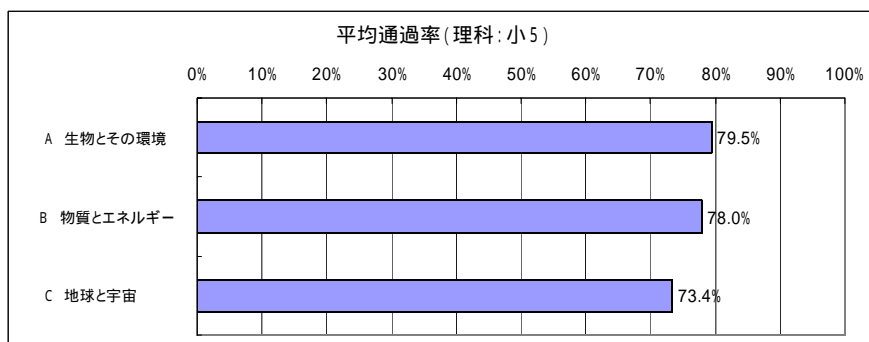


(4) 理科

ア 内容・領域別

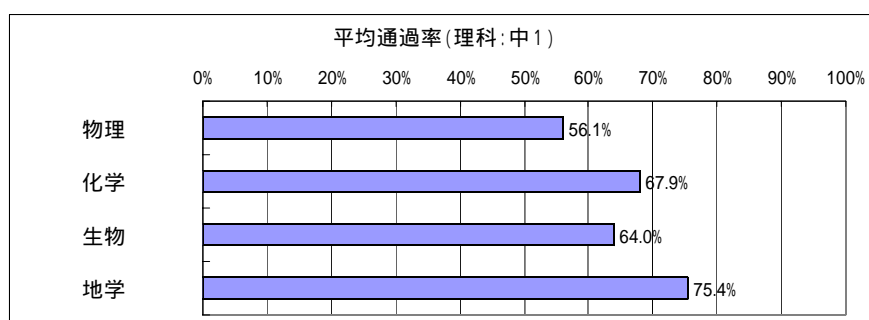
(ア) 小学校第5学年

内容・領域	平均通過率
A 生物とその環境	79.5%
B 物質とエネルギー	78.0%
C 地球と宇宙	73.4%



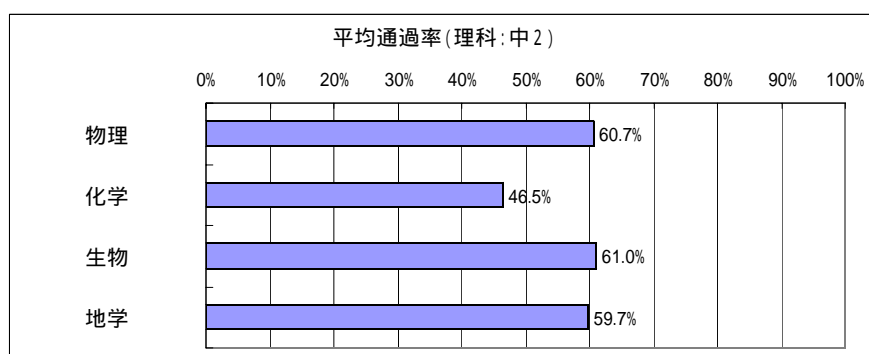
(イ) 中学校第1学年

内容・領域	平均通過率
物理	56.1%
化学	67.9%
生物	64.0%
地学	75.4%



(ウ) 中学校第2学年

内容・領域	平均通過率
物理	60.7%
化学	46.5%
生物	61.0%
地学	59.7%



小学校は、すべての「内容・領域(区分)」とも70%を超える平均通過率である。「地球と宇宙(C区分)」については、時間的・空間的な広がりを直接とらえにくいことから、野外での直接観察やモデル実験等を工夫し、実感を伴った理解を図る学習をこれまで以上に進める必要がある。

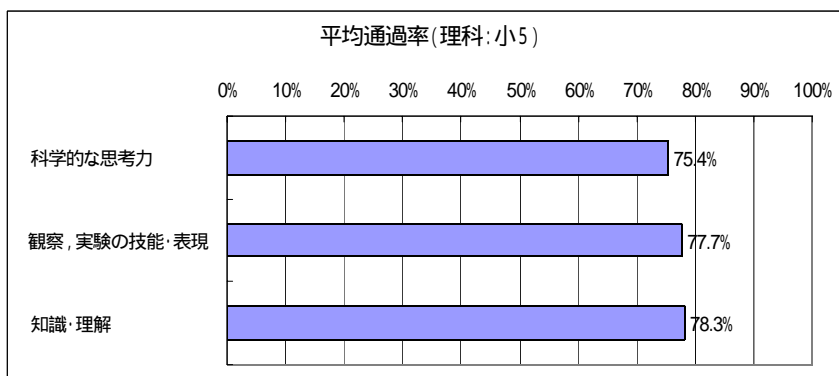
中学校では、物理的領域や化学的領域の平均定着率が低い傾向にある。

今回調査した、「光・音・力」、「原子・分子」は、事象が起こる要因を直接観察することができないため、具体的なモデルを活用する等、児童生徒の概念形成を支援する指導の工夫が求められる。さらに、知識や概念の確実な定着を図るためにも、生徒のつまずきを把握した上で、繰り返し指導を行う等の指導を併せて充実させる必要がある。

イ 観点別

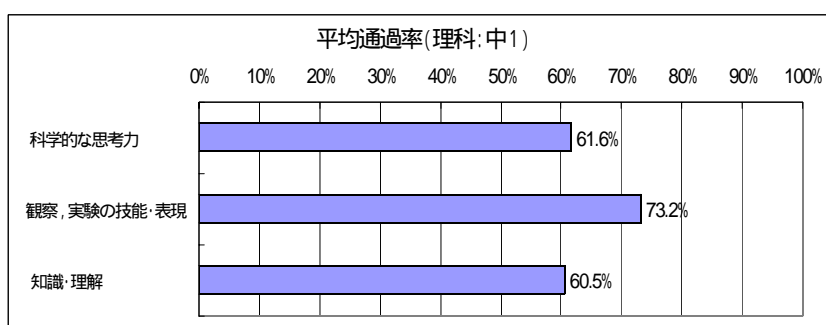
(ア) 小学校第5学年

観 点	平均通過率
科学的な思考力	75.4%
観察, 実験の技能・表現	77.7%
知識・理解	78.3%



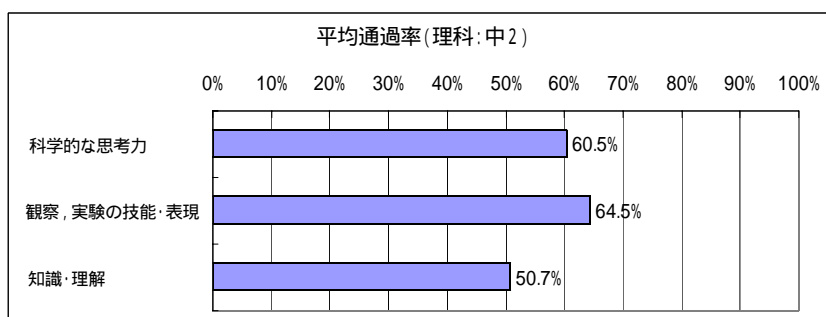
(イ) 中学校第1学年

観 点	平均通過率
科学的な思考力	61.6%
観察, 実験の技能・表現	73.2%
知識・理解	60.5%



(ウ) 中学校第2学年

観 点	平均通過率
科学的な思考力	60.5%
観察, 実験の技能・表現	64.5%
知識・理解	50.7%



小学校は、各観点とも平均通過率が70%を超えており、特に知識・理解については80%近い平均通過率である。科学的な思考力は、獲得した知識等を活用して総合的に判断したり推論したりする力であるだけに、これまで以上に児童が自ら考え、表現する活動（図やモデルなどを使って別な角度から考える活動）を展開する必要がある。

中学校は、自然事象についての知識・理解の平均通過率が第1学年で約60%、第2学年で約51%であり、他の観点に比べて低い傾向が見られる。観察、実験の技能、表現の平均通過率から判断すると、授業において観察、実験はよく行われていると考えられるが、観察、実験を通して得られた知識を確実に定着させるためには、宿題や課題を適切に与えるなどの手だても含めて、指導方法の工夫改善が必要である。